めいろうこどもえん　１月園だより

２０１９年度 年主題〈イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で〉

0・1・2歳児12月主題　「いっしょに」

月のねがい

◎保育者と一緒に神さまに祈る
◎保育者や友だちと一緒にいることを喜ぶ
◎保育者はまめに換気をし、外気に触れる機会をもつ
◎日々の生活の中で祈ろうとする
◎身近な大人や年上の子どもの言葉をまねてごっこ遊びをする

3・4・5歳児1月 主題　「取り組む」

月のねがい

◎イエス様のなさったわざやたとえ話を聞く中でイエス様を身近に感じる
◎好きな遊びを心ゆくまで楽しみ、物事や深く関わる事が面白くなりそれが喜びとなる
◎健康な生活をするために必要なことを自分からする
◎伝承遊びを楽しみことばや数を遊びの中で使うことが面白くなる

今月の聖句　「私の目にはあなたは高価で尊い」

イザヤ書43:4

我が家には三人の子どもたちがおります。二番目の娘は、小学校1年生の時、夏休みが明け、二学期になったら、学校に行けなくなりました。原因は、担任の先生がヒステリックな人で、怖くなってしまったのです。学校には行きたいけれども、先生が怖い。意を決した妻は、そういう娘のために、一緒に登校することにしました。二学期、三学期と共に通いました。私たちにとっては、辛く厳しい、とても長く感じた日々でした。

二年生になった時、担任も変わり、新たな環境になりました。初登校の日、娘は自分と戦っていました。今まで通り、母親と一緒に行って欲しいという思いと、一人で行かなければという思い…。けれども、彼女は自分に気合を入れるように言いました。「わたし、一人で学校に行く！」と。その日以来、妻が同行することはなくなりました。娘が自立した瞬間でした。妻はずっとその娘に寄り添いました。ありのままの彼女を受け入れました。その経験は、娘にとって大きな宝となりました。そんな娘が大人となり、社会福祉士になる道を選んだのも不思議なことですが、むしろそのような経験があったからこそ備えられたのかもしれません。

親に認められている子どもは、どんな困難を抱えても、乗り越えていきます。自分の価値を体験的に知っているからです。実は、神さまによって生まれたいのちは全て、本来価値あるものなのです。「私の目に、あなたは高価で貴い」とおっしゃる神さまです。その神さまのまなざしを意識して生きる時、人はさらに強くなり、より前向きに物事に取り組むことが出来るようになります。2020年という新しい一年も、そのように歩んでまいりましょう。

協力牧師　池田基宣

１月の行事予定

８日（水）	３学期始園式(場:午前保育)
１０日（金）	１月生まれ誕生会
	父母会役員会(pm12:30)
２２日（水）	おゆうぎ会予行　※お弁当
23 or 24	卒園写真撮影

２月の行事予定

１日（土）	おゆうぎ会
３日（月）	１号振替休日（2・3号希望者）
８日（土）	持久走大会
１２日（水）	２月誕生会
１４日（金）	冬の一日遠足　※弁当日
２５日（火）	シオンの仲間大会
２７日（木）	参観日(たんぽぽ・こすもす)
２８日（金）	参観日(あじさい・すみれ)

おゆうぎ会

２・３号認定児
新規入園申込受付期間
１／２７（月）～３１（金）
定員に限りがあります。お早めに市福祉事務所へお申込み下さい！
必要書類は園にもございます。

あけましておめでとうございます♪

あけましておめでとうございます。お正月はゆっくりとお過ごしでしたでしょうか？子どもたちからお休みの間のお話を聞くのが楽しみです。

話は変わりますが、お菓子のハッピーターンを見たり食べたりすると必ず思い出す卒園生がいます。名前は、カズキくん。彼はかなりの偏食で、野菜はもちろんのことパンも食べられず毎日給食では苦戦していました。苦手なのは野菜だけではなくお菓子もほとんどダメで、唯一食べられるのはハッピーターンだけ。その当時のクラスでのご褒美のお菓子と言えば、「ハッピーターン」だったのです。

そして卒園後、お父さんの転勤で奄美へ行き、そのまま音信不通でした。ところが、今年卒園以来初めて年賀状が我が家へ届いたのです。現在、彼は福島で高校2年生になっていました。なんと、あんなに小さくて給食をチビチビ食べていた子がなんと高校球児！細かった体がすっかり逞しくなって、あの頃がうそのようでした。でも、葉書では「今でもパンは食べれません…」とのこと。

「なんで食べないんだろう？・・食が細くて心配！」など、心配しながら子育中の方もおられるかと思います。でも、今は食べれなくても根気強く食卓に出し美味しいことを伝えていくことが一番。それを地道に続けていけば、必ずいつかは食べてくれるようになるのではと思います。10年の月日を経てカズキ君と葉書の中で再会し、改めてそう感じることでした。

今年は、たんぽぽ組の年長男児が「獅子の舞」という曲でおゆうぎをします。このカズキ君も「獅子の舞」を踊りました。当時のことを思い出しながら、今年もかわいい子どもたちのおゆうぎを楽しみにしたいと思います。

一年の中で一番短い学期で締めくくりの学期でもあります。一つ進級をすることへの喜びと不安が入り混じり子どもたちもなんとなく落ち着かなくなります。年度末でなにかと慌ただしいかと思いますが、そんな時こそ、お子さんと一緒に過ごす時間を大切にしていただけたらと思います。

森山

おゆうぎ会

ゆうぎ発表会

ゆうぎ発表会

持久走大会

後世へ遺すもの

新年明けましておめでとうございます。皆様ご健勝の内に、二〇二〇年（令和二年）をお迎えになられたことと存じます。本年も、皆様にとって希望に満ちた素晴らしい年でありますよう心からお祈りいたします。

クリスマス会の折にもお話しましたが、アフガニスタンで亡くなられた中村哲氏**は**福岡出身**の**医師でした。氏は中学生の時にキリスト教に出会い、自ら教会に通いクリスチャンになられたようです。そのきっかけは、明治のキリスト教思想家である内村鑑三の著した「後世への最大遺物」という一冊の本でした。これは内村が明治二七年に講演した際の記録です。内村が簡潔に語る後世に残す遺物とは、お金・事業・思想・高尚なる勇ましい生涯の四つです。後世へ残すものの中で一番大切なものが「お金」であると言い切っています。それは、お金持ちになって個人資産を残すという意味ではなく、国家の為に後世の人々が使えるようにするということです。次に、お金が残せない人は「事業」を残せと語っています。後世へ残せる事業とは主に人々の生活に役立つ公共事業を指しています。また、「お金」も「事業」も残せないのであれば、「思想」を残せと語っています。一人の人生を通して感じ得た「思想」は、後世の人々の事業につながってくると考えているようです。最後に、「お金」も「事業」も「思想」も残せないのであれば、**「高尚なる勇ましい生涯」**を残せと語っているのです。高尚なる勇ましい生涯とは、生きている中で苦しみや悲しみがあるけれど、その先には必ず希望があると信じて生き抜くということ。人がやらないことにチャレンジして、試練に立ち向かっていくということ。試練に立ち向かい、そこから何かを見いだすことができれば、それが後生にとっての最大の遺物になるのだと宣言しています。現代の私たちが便利で豊かな生活ができるのも、前世の人々が様々な試練に立ち向かったからこそであることは否定できないと思います。では、便利で豊かな生活をしている私たちは、後世に何を残せるのでしょうか？便利で豊かな生活ができるから、何も考えずに生きることもできます。でも、それでは後世に何も残せない。一人ひとりが自分の人生と向き合い、そこから語れるものができた時、それが後世に残せる遺物になるのだと気づかされます。

中村氏の愛した言葉は、**「一隅を照らす」**と聞いています。道に倒れている人に出会ったら迷わず走り寄るように、人知れずアフガニスタンの人々のために灯し続けた生涯そのものだったと思います。このことを覚え、多くの若者たちが心動かされ高尚なる生涯を歩んでいくことを願ってやみません。

三学期は、年長児にとってこども園生活最後の学期です。幼児教育の仕上げの時でもあります。それぞれの子どもたちにとって、思い出深い魅力いっぱいの日々にできるよう努めてまいります。保護者の方にも行事等でご協力をお願いすることになりますが、本年も宜しくお願いいたします。

園　長

新年、あけましておめでとうございます。

今年も子どもたちの成長を日々楽しみながら、

新しいことへの挑戦も応援して参りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いします。

早速、子どもの成長を見守る“1月の月主題”をご紹介します。

1・2歳児が「いっしょに」

3・4・5歳児が「取り組む」です。

ご家庭でもこういったお子さんの姿を成長として見守り、

様々なエピソードを私たちにも是非教えてくださいね。

心理：木口屋恵子